
IS Zero ~インフィニットストラトス ゼロ~

SIN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS Zero 〜インフィニットストラトス ゼロ〜

【Nコード】

N5565BA

【作者名】

SIN

【あらすじ】

ISが発表されこの世が女尊男卑となった時代、ひよんな事からISを起動

させてしまった二人の男子がいた。だがその少年の一人諸星零士には目的があった。それは行方不明の父親の事を知ってるかもしれない赤い巨人を探すために宇宙へ行くことだった！
今ここに最大級のバトルが始まる！！

Episodo 0 赤い巨人との出会い（前書き）

更新はかなり不定期になると思う・・・

でも書いて見たかったんだ！！うん！

では、どうぞ！！

Episode 0 赤い巨人との出会い

ドゴオオオオオオオン！！

目の前の光景に俺は啞然となる、それは子供の俺にも分かるぐらいの凄まじい光景だった・・・

テレビのニュースで日本を射程内とするミサイル基地のコンピューターが全てハッキングされ、約2000発のミサイルがこの日本に迫ってきている。

幼いながらも俺は恐怖した、死がもうすぐそこまで来ている・・・家族とバラバラになってしまう・・・そう思うと怖がらずにはいられなかった。

町の人たちも逃げまどい叫びながら我先にと走って行った。

「ドンっ！！」うわっ！？」

かくゆう俺もお袋と一緒に逃げていたが、途中ではぐれてしまい逃げ惑う人々の中を必死に走って家族を探し続けた。ただど全然見つからない・・・どうすれば・・・そして目の前に広がる光景は・・・

「うそ・・・だろ・・・！？」

ミサイルが目前に控えていた、もつためだ・・・そう思った時・・・

ザンツ！！ドオオオオオン！！

誰かがミサイルを切った、見てみるとそこには白いパワードスーツのような

物を身に纏った人がミサイルを次々に切り裂いてゆく、一つ、二つ、・・・

瞬く間にすべてのミサイルを破壊した。

「すげえ・・・」

これでもう安心だ・・・だがこの油断が命取りとなった。

キイイイイイイイイン！ チュドン！！

「！？」

空から何かが飛んで来る・・・あれは・・・怪獣！？そんな！？
怪獣は空想上の生き物じゃなかったのか！？

「ギイイエEEEEEEEE!!!!!!」

「!？」

白いパワードスーツの人が危ない!!

だけどその人は間一髪のところでは身をかわす。

だが怪獣が俺の方に狙いを変えてきた!

「グガアアアアアアアア!!!!!!」

「うわあああああああああ!？」

怪獣の口から炎が吹き出される、俺には当たらなかったもののビルに直撃して崩れ落ち、真上に降り注いだ。

「う・・・うう・・・」

「ガアアアアア!!」

怪獣がとめと言わんばかりに近づいて来る・・・

もうだめだ・・・せめて・・・せめて最後に会いたかったよ・・・
お袋・・・親父・・・

あきらめかけたその時だった！

デユワ！！

ガシッ！！ドガッ！！

「ギイイイイ！？」

「ジュワ！」

目の前に聳え立ったのは燃えているような真っ赤な巨人……まるで太陽の样だった。

「ジュワ！」

「ガアアアア！！」

巨人と怪獣の戦闘が始まった、怪獣は飛び回りながら火を噴き攻撃するも

巨人はひるむことなく立ち向かっていった……そして……

「デユワ——！！！！！」

「グガアアアアア！！！！？？？？」

ズドオオオオオオオン！！！！！！

巨人が発射した光線によって怪獣は跡形もなく消滅した、そして巨人は

ゆっくりしゃがむと自身の手を俺の方へ伸ばして来た。

もしかしてやられる！？と思ったが巨人は瓦礫をどかして俺を助けてくれた。

そして巨人はゆっくりと空を見上げ飛びだって行った・・・

「あんたはいつたい・・・」

そんな事を思っていたら頭の中からなつかしい声が聞こえてきた。

「零士^{れいじ}・・・」

「！？親父！？」

聞こえてきたのは親父の声だった、宇宙ステーション爆発の事故で

死亡扱いになった俺の家族の声・・・

「親父！一体どこにいるんだよ！？俺とお袋がどんだけ辛かったか・・・」

「すまない・・・零士・・・このような形でしか話せない事を許してくれ・・・」

「戻って・・・戻って来てくれるんだろ！」

「私はまだそっちに戻るわけにはいかない・・・私にはやらなければならぬ使命があるのだ・・・」

「・・・んだよ！！それはそんなに大事なのかよ！！俺達家族より！！」

「・・・すまない」

今までのうつ憤を晴らすかのように親父の声に罵声を浴びせる。違う・・・俺がしたいのはこんな事じゃねえ！！

「零士・・・」

親父が静かに語り始める、俺は黙って声に耳を傾けた。

「もしかしたらもう会えないかもしれない・・・だが、忘れないでくれ・・・」

私はいつでも零士やアンヌを見守っている・・・いつまでも・・・

「

「親父？親父イ！？」

この声を境に親父の声は聞こえなくなった・・・

「親父・・・俺・・・」

だがこの出会いが少年を大きく成長させるきっかけだった・・・

I S Z e r o ｝ インフィニットストラトス ゼロ｝ スタート
！！

俺のビッグバンはだれにも止められないぜ！！

Episode 0 赤い巨人との出会い（後書き）

いかがだったでしょうか？

感想お待ちしています。それでは！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5565ba/>

IS Zero ~インフィニットストラトス ゼロ~

2012年1月15日04時55分発行